

平成23年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	23K04	氏名	増田 宏美
研究主題 —副主題—	道徳の時間における評価の在り方		
所属校	世田谷区立明正小学校	派遣先	玉川大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	各教科には单元ごとの目標があり、最後に目標を達成できたかどうかを確かめる。しかし、教科ではない道徳や特別活動、総合的な学習の時間はどうかであろうか。道徳の評価は大切であると言われながらも実際どのように評価すればよいかかわからず、悩んでいる教師が多い。また、他の教科と違って評価規準がないため評価できないという意見もある。今回の研究では、道徳の時間の評価がどうあるべきか、具体的にどうすべきか、授業を通して検証することを目的とする。
II 研究の方法	児童がねらいとする価値について、どのような考えをもっているかを把握するために、事前アンケート（自己評価）を行う。その結果をもとに、自己評価が低い児童、高い児童に対し、授業の中で意図的に考えを聞く時間を設定する。授業後には授業前の評価と比べ、ねらいとする価値に気付いたかどうかを確認することで心の変容を把握する。
III 研究の結果	今回の研究では、授業前に児童の道徳的価値に関する実態把握をしてから授業を行い、授業後に児童がねらいとする価値に気付いたかどうかを確認する評価の在り方を検証した。 事前の評価を行うことは、児童の実態を把握するのに非常に有効であった。児童は自己評価をすることで、自分自身を見つめることができた。また、教師は自己評価の結果を活用して、ねらいとする価値に迫るための手立てを考えることができた。
IV 考察	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで事前の評価はほとんど行われていなかった。授業を行う前の時点で、児童の道徳性には様々な段階がある。授業中に書かせたワークシートから、児童の道徳性の高まりを評価している例はいくつかあるが、授業前に児童の実態を把握していなければ、比較して評価することはできない。 ・児童の道徳的価値の自覚が高まったかどうかを、授業後に振り返って具体的に検証している例は少なかった。価値の自覚が高まったかどうかは、授業のねらいに迫れたかどうかで判断できる。教師の責任性を明らかにするために、授業を通してねらいを一人一人がきちんと達成できたかを確認しなくてはならない。 ・今回行った授業では、最後にほぼ全員の児童が、ねらいに迫ることができていた。事前の評価を行い、ねらいとする価値に迫りにくいと予想される児童に対して手立てを講じたからであると考えられる。 ・今まで道徳の評価は数値で評価できない、他教科と評価の仕方が違うから、という理由で重要視されていなかった。道徳の評価は各教科における評価と、異なったいくつかの特性をもっている。しかし、授業前に実態を把握する診断

的な評価をし、事後にねらいを達成できたかどうか、総括的な評価を行う点ではどちらも同じである。

- ・評価が難しいからといって、曖昧なままにしておいてはいけない。目標に照らして事前評価を行い、児童の実態を把握してから授業を行う。そして、授業後にねらいとする価値の自覚が深まったかを毎回必ず確認しなければならない。その確認をすることで児童理解を深め、今後の児童への接し方、指導の仕方を考えることができる。

- ・今回の研究における課題は以下の2点である。1点目は、事前アンケートにおける内容項目の吟味である。児童に分かりやすく評価してもらうため、学習指導要領に書かれている道徳的価値2項目を、簡単な文章に書き直して活用した。しかし、若干のずれが出てしまったり、内容が似てしまったりする項目があった。再考し、よりよいアンケートになるようにする。また、今回の研究では9月に事前アンケートを行ったが、年間計画を立てることを考えると、4月から5月中に行うことが望ましい。

- ・2点目は、事前と事後のアンケート内容を一致させることである。ほぼ全員の児童が、授業のねらいを達成できていたが、どのように変容したかを正確に見るためには、事前と事後のアンケートを同じにしなくてはならない。同じ質問をすることで、児童の心の変容を見取ることができる。今回は授業のねらいに気付いたかどうかで価値の自覚が高まったかどうかを判断したが、何を基準として判断するかは今後の課題である。

- ・道徳の時間でいう評価には、児童の道徳性の評価だけでなく、児童の学習の様子の評価や教師の指導法の評価がある。この3つの評価はそれぞれが関係し合い、切り離せないものである。今回の研究では、児童の道徳性の評価を中心に検証してきたが、指導計画の立て方や教師の指導力によっても結果が変わってくるのがわかった。道徳的な価値の自覚を深めるためには、資料の精選、資料提示や発問の工夫を常に考えていかななくてはならない。

- ・現在、道徳の時間における評価はあまり実践されていない。しかし今回、研究を進めてみると、「評価の仕方を教えてほしい。」と思っている教師が多いことが分かった。道徳性の変容は即時的なものではないため、継続的、長期的な評価も必要だが、まず一時間の授業を振り返り、児童がねらいとする価値に気付いたかどうかを確かめるという評価方法を、提案したい。資料として載せた事前アンケートや授業後の振り返りカードは、すぐに使うことができる。児童の実態に合わせて変更することも可能である。一つの評価方法として広めていきたい。